熟練された見事なスティックさばき

3月4日、村海洋センター体育館で第28回冬季親睦ゲートボール大会が開かれました。

この大会は、ゲートボール競技の健全な普及促進や愛好者の親睦交流を図り、冬場の運動不足を解消することを目的に1986年より毎年開催されています。

この日は５チーム約40人が参加し、各コートに分かれて勝敗を競い合いました。参加者ら監督の指示を受けながら、敵のボールを不利な場所へ追いやるなど、巧みな作戦や熟練された見事なスティックさばきを見せて、心地よい汗を流していました。

税をテーマにしたポスター募集 新中生徒3人が入選

3月6日、第28回全道中学生の税をテーマとしたポスター募集で、山元晃太さん（2年）が北海道知事賞入選賞、野村紫苑さん（2年）、妙護寺志歩さん（1年）の2人が石狩振興局長賞を受け、その伝達が新篠津中学校校長室で行われ、石狩振興局地域政策部川島尚樹部長より表彰状と記念品が手渡されました。

このコンクールは、私たちの暮らしを支える「税」に対する関心と理解を深めてもらうために行われているもので、全道で171校から4045点の応募があり、新中からも50人が応募しました。

移住モニターツアーで雪かき体験

3月6日から8日の日程で札幌広域圏組合主催による移住促進モニターツアーが行われ、3月7日、道外に居住し石狩管内８市町村への移住を希望している20人がしんしのつ温泉たっぷの湯の裏側で雪かき作業を体験しました。

最初に、北海道大学大学院で歴史地域文化学を専攻している小西信義さんが「雪を切り分けることで身体への負担が軽減されます」と道外の移住希望者にアドバイス。その後、参加者らは剣先スコップなど７種類の道具を使いながら約20分間雪かき作業を行い、冷えた体を温泉に入浴し温めました。

今回初めて雪かきを体験した千葉県在住の室井さんは「楽しい体験でしたが、毎朝は大変です」と感想を述べていました。

新中卒業生あいさつ

3月12日、新中卒業生39人を代表し、中井健太さん、大村涼太さん、小林舞さん、佐久間杏佳さんが、担任の小倉先生とともに卒業のあいさつのため東出村長を訪問しました。

中井さんが「小学校からの9年間お世話になりました。ありがとうございました」と、少し緊張気味に感謝の気持ちを伝え、小林さんら4人で花束を手渡しました。

東出村長は、幼少の頃から励まし合い、ともに歩んできた友人たちと別れ、それぞれの道を歩む生徒たちに「村で9年間学んだことを大切にして、これからも元気にがんばってください」とエールを贈っていました。